〈巻　頭　言〉

AIDS 対策と健全な社会

簑輪　眞澄

1980年代の初頭に発生したAIDSはあれよあれよという間に全世界に蔓延しつつある．それよりも驚くのはまたたくまに原因ウイルスが発見されたことである．決定的な治療法やワクチンはまだ開発されていないものの，これで敵の手の内はかなりわかり，対策はずいぶんやりやすくなった．

すなわちHIVの感染は，感染者の①血液，②精液，③腟分泌液，④母乳が健康者の体内に入った時に限られるのである．これらのうち多くの国における流行の初期段階で重要な役割を果したのが，①肛門性交による精液と，②静注薬物濫用における血液であった．幸い日本ではこの2者が少ない．合衆国において，AIDS蔓延の初期には肛門性交の場を提供するセックス産業が大きな役割を果したとされているが，わが国の男性同性愛者はもっと貞節であると聞いている．

静注薬物濫用についても，日本でも問題にはなっているが海外のいくつかの国ほどの大きな問題ではなく，少なくともHIV感染に対する寄与は小さい．これは警察などの努力もさることながら，戦後の日本が貧富の差の小さい社会を作ってきた成果ではなかろうか．もちろん日本にも貧富の差はあるが南北アメリカや開発途上国におけるほどの差ではない．ある程度努力すればだれでもそれ相応の生活は確保できるので，依存性のある薬物に身をまかせるほど絶望的になることはないからである．

HIV感染対策には教育が重要であることはしばしば強調されているが，この点においても，就学率が高く，文盲率の極めて低いわが国は有利である．ただ，今後も増えると予想される外国人労働者に対する各種情報の伝達手段には工夫をする必要があろう．これは何もAIDS対策のためだけではない．これまで単一言語の大和族を国民の大部分とする国家であった日本が，多民族国家に移行する過程として必要なことなのである．これはまた，健常者のみの都合を考えて作られてきた日本社会が，障害者，老人，患者，あるいは感染者をも含めた人達が共に生きる社会への脱皮でもある．

以上は比較的楽観論であったが，現在わが国のHIV感染の多くは異性間性的接触によるものであり，これはなかなかむずかしい．異性間性的接触というのは，静注薬物濫用や同性愛よりも日常的だからである．しかし，問題となる異性間性的接触というのは現時点では限られている．わが国の場合，それはいろいろな形での売買春によるものと考えられるからである．売春は世界最古の職業といわれ，日本を含む多くの国で禁止されているにもかかわらず，厳しい取り締まりは行なわれていないのが現状である．だからといって売買春が容認されているわけではない．性をひさぐことが非人道的であるのは洋の東西を問わないはずである．麻薬等の犯罪防止には成功を収めているわが国の警察にもっと売買春防止にも力を入れてもらうと同時に，もっと積極的に売買春を社会からなくするにはどうすれば良いのかに関する研究が推進されるべきなのではないだろうか．

こういうふうに考えてゆくと，行き着くところは「健全な社会」ということになるのではなかろうか．そして，売買春の問題を除けば，これまでみてきた限りでは日本はかなり健全な社会の条件を備えているように思われる．AIDS対策に限らず，健康な日本を追求するならば，公衆衛生といわず，もっと広く共生をも含めた「健全な日本」を作り上げて行くことが必要なのではないだろうか．

（国立公衆衛生院疫学部長）